

【相談内容】

No46-2.ASRが考えられるひび割れの補修設計について

○ASRが考えられるコンクリート主桁、横桁のひび割れ補修として、ひびわれ注入は通常のエポキシ樹脂注入を行い、亜硝酸リチウムは表面含浸工法にて対応は可能か？

【助言内容】

- 現場条件や補修の目的等によって、補修工法等が異なるため判断しかねる。
- 補修工法の選定にあたっては、損傷要因（中性化・塩害・ASR等）、要求性能等に応じた対策工法を経済性、環境性および施工性等を考慮し、道路管理者にて決定する必要がある。
- 対策後すぐに再劣化が生じないよう損傷要因の排除も含めて十分検討することが重要
- 対象橋梁の補修計画を立案する上では補修後に求める橋梁の性能（耐荷・耐久）を整理すると良い。
- 上記性能を満足させるのに補修後の供用年数をメンテフリーで考えるのか、補修ありきで考えるのか等について、整理することが重要
- 劣化要因に対する補修対策では、劣化メカニズムに適合した補修工法の選定が重要
- 同じ損傷であっても劣化メカニズムによっては、取るべき補修工法が異なるため留意が必要
- 上述に加え、工法の選定にあたっては、「経済性」、「構造物の周辺環境」、「施工性」、「維持管理の容易さ」なども考慮することが望ましい。